

DX時代を生き抜く専門学校教育とは

社会課題解決を視野に入れた人材育成を

企業や自治体での DX 事例が創出され始めているが、未だにデジタル化にも着手できない企業等も多い。今回はDX推進の現状と課題、そして人材育成について、(一社)日本デジタルトランスフォーメーション推進協会(以下、JDX)の代表理事 森戸 裕一氏にお話を伺った。

JDXとは

当協会は大手企業と中小企業、行政と民間、さらには大都市と地方のような今までの分けや分断をなくし、それらを連携させながら DX 推進人材育成や組織づくりの支援、DX の啓蒙・普及活動などに取り組んでいます。当協会はデジタル庁や総務省、経済産業省の後援をいただいたイベントの企画・運営や、日本マイクロソフトや富士通、その他システム会社、様々な業種の企業等の協賛・協力により活動しています。主なイベント活動としては「日本 DX 大賞」をはじめ、総務省とともに始めた「全国クラウド実践大賞」、リスキングに積極的に取り組む企業を表彰する「JAPAN HR DX AWARDS」等があります。

企業におけるDX推進の現状

現状は大手企業中心に進み、地方都市の企業や中小企業はまだまだ取り残されている状況にあります。まだ大手企業は人手が足りていますが、地方都市の企業では人手が足りず、存続の危機に迫られてしまいます。デジタル化を進めるべきなのは地方都市の企業や中小企業ですが、本来やらなければいけないことと実態が乖離している状況です。

一方で、大手企業でもDX推進は業務効率化に留まっており、DXを通じた事業の変革までは至っていない、DXによる業務効率化で創出したリソースを成長戦略へ再投資するといった好循環が生まれていないのが課題です。DXの本質である「新しい仕事の創出」という視点が不足していることが推進の鈍さにつながっていると思います。

教育機関としてのDX人材育成の
第一歩は何か

まずは自校が位置する地域課題や学生の卒業後に直面する社会課題を明確化する必要があります。学生が専門スキルをどのような課題解決に活かすのか、具体的なイメージを持つことは、学習への動機付けや社会の変化に柔軟に対応できるDX人材育成へつながると思います。そして2040年問題に挙げられる未来を見据え、必要となるであろうスキルを予測し、カリキュラムに反映させてほしいです。専門学校は地域に根差し、職業人材を輩出する教育機関であるため、大学よりもスピード感を持って取り組めると思います。学生のウェルビーイングも視野に入れ、社会課題解決を起点とするビジョンがカリキュラムを動かし、変革の先駆けになると思います。

専門学校に向けてのメッセージ

専門学校ではインターネットやAIを駆使して専門スキルを深化してほしいです。高校の授業では「探求」を実施しています。これは大学のゼミのように、考えることを学ぶ授業です。人間は苦手意識を持つと立ち止まりますが、AIは365日24時間稼働し、どんどん新しい知識を修得しています。やりたくないことをすることで対価を得る労働から、やりたいことを突き詰め、テクノロジーと共存する時代に変化しています。専門学校の学びは先生からの教育だけでなく、テクノロジーと共存するために学生が自ら知識を習得し、新たな問いを立て自走していくことができると、さらに専門技術に特化した教育機関になるのではないのでしょうか。



森戸 裕一氏

一般社団法人日本デジタルトランスフォーメーション推進協会 代表理事
“経営とITの融合”という切り口で、多方面で活躍するコンサルタント。IT活用を基軸にした営業戦略から人材育成までの幅広いテーマで講演を行い、多くの企業・経営者の支持を得ている。

数学嫌いの学生への数学的思考力の育み方とは？

数学の力で解き明かす、ビジネス課題へのアプローチ

学生の数学力低下が懸念されるなか、数学的思考力はこれからの社会人に広く求められている。公益財団法人 日本数学検定協会では、実務における数学の活用能力を測るための「ビジネス数学検定」を実施している。今回は、数学力向上のための専門学校教育について、同協会の理事長 高田 忍氏にお話を伺った。

日本数学検定協会とは

当協会は、数学の生涯学習化と数学嫌い解消を目指し、検定事業、出版、イベント、学術研究等に取り組んでいます。今年度から3か年の中期経営計画では「検定事業者から人財育成プロデュース事業者への変革」を掲げ、データ活用基礎力としての数学、応用力としてのデータサイエンス、そして課題解決力としてのビジネス数学の3つを有機的に使いこなす人財育成を目指しています。

社会人に求められる数学的思考力

近年、企業においてデータを利活用できる人材のニーズが高まっています。ビジネスシーンに潜む課題を見つけ、それらの関係性をしっかりと把握し、目的に応じて組み合わせて意思決定ができる数学的思考力が求められています。デジタル化の進展でデータ主導の時代に突入した今、例えばSDGsの達成など、過去から現在そして将来に向けた事業展開には、実態に即したデータを正確に利活用することが欠かせません。一方で、デジタル化や生成系AIの活用が広がり、数量的感覚の低下、出てきた答えを鵜呑みにしてしまうという懸念もあります。常識的な範囲の数量的感覚を持っていないとシステムが導き出した数値の間違いや、付けるべき単位が何であるか理解することができません。

ビジネス数学の5つの力

当協会では、実務での数学活用能力を測るための「ビジネス数学検定」を実施しています。「ビジネス数学検定」は、実用数学技能検定「数検」の領域とデータ分析やマーケティングなどの各専門分野をつなげる位置づけにあります。そして「ビジネス数学」では、ビジネスにおいて必要とされる数学力を5つに分類しています。物事の状況や特徴をつかむ「把握力」、規則性や変化、相関性などを見抜く「分析力」、いくつかの事象から最適な解を選ぶ「選択力」、過去のデータから未来を見通す「予測力」、情報を正確に伝える「表現力」の5つです。これらの力はビジネスの至るところで求められています。

数学嫌いの学生に対する数学的思考力の育み方

数学が苦手な学生には、数量的感覚を意識した会話から思考力の向上を図ることをおすすめします。学生時代の数学は答えを導く式が先立ちましたが、ビジネスの現場では目標が先にあり、手段を考えるという逆方向の発想が必要とされます。社会ではあらゆる場面で定量的な目標が求められ、横断的に数学を使用しています。専門学校は産業界が求める職業人を育成していることから、実践を通じた数字や数学の理解へとつなげることができるとは期待しています。

また「ビジネス数学検定」はビジネスシーンの具体的な事例に近い出題が特色であり、数量的感覚を身につけ、数学的思考力を育むことができますので、ぜひご活用ください。

専門学校教育に求めること

変化が目まぐるしいグローバル時代には、もはや文系・理系という考え方は合っていないと思います。数学が先生方の得意分野でなくても、学生の皆様と一緒に課題解決に取り組む過程で、文理関係なく社会に求められている力として、数学的思考を取り入れていただきたいです。私達も専門学校をはじめとする教育機関と連携し、学生の思考力育成を支援してまいります。



高田 忍氏

公益財団法人 日本数学検定協会 理事長
1995年3月大学卒業後、都市計画に関する総合コンサルタント会社に就職。
1997年4月に日本数学検定協会に転職し、25年以上にわたる検定業界での活動を通じて、数学と社会の融合や新たな分野の創造に従事している。現在は「なぜ?を発見!できる人づくり」をコンセプトに活動の幅を広げている。

公益財団法人日本数学検定協会はTCE財団の検定事業に賛同します。

文化・ビジネスを変えるAIの現在と未来

今、注目のAI事例と活用に求められる素養とは？

技術の普及と進化が見られる AI。最新事例と今後について、AI を活用した企業コンサルティングや AI 特化型ウェブメディア「Ledge.ai」運営などを行う株式会社レッジ 社長室 / 編集部 編集主幹の落合 研次氏にお話を伺った。

AI特化型メディア「Ledge.ai」とは

「Ledge.ai」は 2017 年末よりスタートし、国内最大級の AI 関連メディアとなりました。現在 AI などの最新テクノロジーのニュース、活用事例、学習コンテンツ、開発など、常に最先端の動向をキャッチし続け発信しています。

AIの最新事例

最近の AI 事例では、クリエイティブ分野での活用が目立っています。例えば昨年は伊藤園やパルコが最先端の画像生成 AI を駆使した CM を地上波で放映し、話題になりました。また世界的なゲーム開発者会議「GDC2024」の事前調査では、ゲーム開発過程において約 3 割が AI を活用していると回答していました。国内でも政策会議「第 4 回 AI 時代の知的財産権検討会」の中で、大手ゲームメーカーレベルファイブ社の提出資料によると、基礎データの作成、アイデア出し、クオリティアップを目的に、多くの場面で AI がクリエイティブの助けとなっていました。最近では芥川賞受賞作家が執筆活動で AI の力を借りていたことも話題になりましたね。さらに自動作詞作曲 AI の「Suno AI」もテキストで指示を出すだけで、簡単に楽曲が作成できると注目されています。

一方、事務・業務効率化といった実務面での AI 活用も盛んです。大企業を中心に会社の過去データを AI に

学習させ、業務の自動化をするケースが増えています。日清食品グループは業務効率化を目的に、対話型 AI 「NISSIN-GPT」をグループ社員約 3,600 名へ一斉に導入しました。またオルツという企業では、AI で社員のクローンを生成・活用し、日々の業務や情報共有を AI に代替させる取り組みを開始しました。AI クローンの活動量に応じて給与支給を開始するなど、労働と給与の変革が起きています。

クリエイティブ系の活用から現実空間での活用へ

今後は研究レベルで機能が向上する「基盤モデルの進化」と、「個別の用途に合わせてカスタマイズしていく」という2つが主流になると考えられます。AI の活用はクリエイティブ分野から現実空間へと広がっています。例えば福島県の実験除染作業ロボットや、令和 6 年度能登半島地震の被災地へ国内初のドローンで物資を届ける動きにも AI が活用されています。また、模倣学習（AI が手本を模倣して自律的に動き出すこと）させることによって、中華料理を作るロボットをスタンフォード大学が開発しています。まだ研究段階ですが、近い将来調理の現場に導入されることでしょう。このように AI の機能をロボティクスに搭載し、社会実装していくことで現実空間に起きている課題を解決でき、我々の暮らしに変化をもたらすと思います。

AIリテラシーを醸成するために

AI はあらゆる業界で影響力を持つ技術です。専門学校生が将来活躍する領域でも、AI の活用シーンは確実に広がります。まずは関心のあるサービスで、できる限り AI を利用してみることをおすすめします。その上で、自分の専門性と AI をうまく組み合わせ、強力なパートナーとして AI を使いこなす力が不可欠です。AI のハルシネーション（AI がもっともらしい虚偽の情報を出力すること）に対し、人間が判断をする場面は必ず出てきます。また AI は瞬時に膨大な数の答えを出力することができますが、希少性を作り出すことはできません。何が最適なのか考え、決定するのは人間です。専門学校の学びの中で基礎力を高める努力を怠らず、AI とともに成長し続ける姿勢を持っていただきたいです。

AI特化型メディア
「Ledge.ai」
<https://ledge.ai/>



落合 研次 氏

株式会社レッジ

社長室 / 編集部 編集主幹

複数の Sler やベンチャー企業で、開発・分析・企画・戦略などの業務に従事。

2023 年 4 月より、AI 専門メディア「Ledge.ai」編集主幹。

株式会社レッジはTCE財団の検定事業を応援します。

2024年春夏向け商品として製造化決定！

専門学校生対象 第12回Tシャツデザインコンテスト優秀賞発表 [PR]

「Spring & Summer 2024 Tシャツデザインコンテスト」の優秀賞が決定しました。

今回は1,117作品の応募があり、ジーンズメイトのバイヤーの方々による厳選なる審査の結果、優秀賞として13作品が選出されました。

優秀賞受賞作品は、春夏向け商品として製造化し、4月以降に全国のジーンズメイト各店舗およびジーンズメイト公式オンラインショップにて発売します。

そして、総販売数が多かった上位3名を表彰します。ぜひご注目ください！



いつも思っていること2
山脇美術専門学校
スペースデザイン科 1年
住吉 遙人



おつカレーさま
太田情報商科専門学校
デザイン学科 1年
佐々木 想



拒否柴
秋田コア ビジネスカレッジ
情報システム科 1年
安田 愛衣



ひよっこりねこ
秋田コア ビジネスカレッジ
情報システム科 1年
渡辺 悠



にゃ！？
穴吹ビジネス専門学校
グラフィックデザイン学科 1年
松岡 心夢



ニヤンドウィッチ
船橋情報ビジネス専門学校
Webクリエイター科 1年
上野 稚奈



寿司の子は寿司
日本電子専門学校
グラフィックデザイン科 2年
村山 江梨佳



きりん
名古屋工学院専門学校
ゲームCG学科 1年
添田 仁美



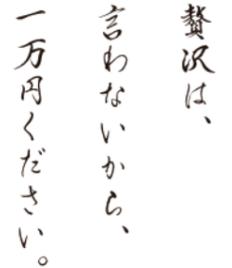
深淵より来たるねこ
名古屋工学院専門学校
ゲーム研究科 1年
永井 剛輝



カワウソです。
名古屋工学院専門学校
ゲーム総合学科 3年
岡田 祐汰



アヒル総取り
大阪情報コンピュータ専門学校
メディアデザイン学科 1年
池木 彩葉



贅沢は言わないから
専門学校山形V.カレッジ
ICTクリエイター科 2年
西川 拓杜



ブリッジうさ
国際トータルファッション専門学校
コスチュームデザイン科 1年
安達 美海

ジーンズメイト
公式オンラインショップはこちら



お問い合わせ

Tシャツデザインコンテスト事務局
TEL : 03-3436-2035
Mail : jmcontest@setten.sgec.or.jp

当事務局は、TCE財団の検定事業に賛同します。

学生がビッグデータ分析に基づく課題解決案を発表

「Dream成果発表会2023年度後期」開催 [PR]

(一社) ビッグデータマーケティング教育推進協会 (以下、Dream) は 2 月 21 日に掲記の発表会を開催しました。本発表会は Dream 認定「データマーケター養成講座」の授業成果と学生の実力を広く知っていただくことを目的に、各校が授業内で取り組んだ内容を学生の皆様より発表いただいています。

審査はデータマーケティングに携わる企業および Dream 理事が行い、評価ポイントが高かった上位 3 チームを表彰しました。



審査結果発表

第3位

アルスコンピュータ専門学校のチーム グローバルうどんハーモニーによる「うどんを世界へ響かせよう」が受賞しました。

日本食に苦手意識を持つ外国人が日本食を食べるきっかけづくりを目的とし、購買データや市場シェア率などのデータにより外国人観光客が日本に滞在中に食す「うどん」に注目。日本食に母国の味を掛け合わせた料理として、カップ麺タイプのうどんを気軽にアレンジできるレシピを考案。販売促進案として多言語のレシピ紹介サイトなどを発表しました。

第2位

アルスコンピュータ専門学校のチーム まつモンによる「熊谷大作戦～未来につなげるプロジェクト～」が受賞しました。

地酒を通して熊谷市を盛り上げること

を目的に、埼玉県の地酒とおつまみのサブスクリプションサービス「さけくらま」を企画しました。熊谷市の人口データや習慣飲酒率などをもとにメインターゲットを設定し、商品選定には市場シェアや購買データから人気のお酒・おつまみを選定した複数のサービスプランを発表しました。

第1位

大原簿記公務員専門学校愛媛校のチーム Bread&Gibier による「ジビエカレーパンで愛媛を美味しく彩る♪」が受賞しました。

愛媛県内の害獣被害への対策案として、外国人観光客をターゲットに猪肉の有効活用したジビエカレーパンの販売促進案を発表。地元で猪を捕獲し食材として提供する「しまなみイノシシ活用隊」へのインタビューやジビエカレーのレシピを開発しました。また、都道府県別店舗数や消費量などの各種データから愛媛県はパン文化が根

付いている県であることに注目し、観光客が良く訪れるパン屋へのフィールドワーク調査などを行いました。

全体講評

審査員からはデータを上手く活用し、弱みを強みで打ち消す着眼点の良さ、そして実効性において優れた発表が多かった点を高く評価いただきました。また今回は ChatGPT を活用するチームや、人口減少・社会福祉という地域課題を取り上げた発表があり、年々学習の成果が着実に向上していると感じられる発表会でした。

Dream ではビッグデータを利活用し、実践的な企画力・行動力のあるデータマーケター育成を支援してまいります。

次回の成果発表会は、2024 年度前期にデータマーケター授業を実施した学校を対象に、2024 年 9 月に開催予定です。

お問い合わせ

一般社団法人ビッグデータマーケティング教育推進協会 事務局

TEL: 03-3436-2057 <https://jp-dream.or.jp/>

Dream事務局はTCE財団の検定事業に賛同します。

機械・電気・電子系専門学校対象 業界研究授業

東京・大阪・熊本の3校で実施

ビーアライブでは次代の職業人材育成のために、専門学校と企業との接点を創出する企画・運営を行っています。2023年12月～2024年1月に機電系の専門学校生を対象に、株式会社トップエンジニアリングによる業界研究授業を開催しました。

今回は、機械および電気・電子技術者の仕事の紹介や、実務の一部を体験するワークを行いました。

株式会社トップエンジニアリング

東証スタンダード上場の株式会社平山ホールディングスのグループ会社であり、研究開発・設計に特化した総合エンジニアリング企業。機械、電気電子、組込み開発、ソフトウェア、IT インフラ、生産技術など、幅広い分野のサービスをワンストップで提供しています。

授業内容

電気・電子学科対象

- ・電気電子技術者の仕事紹介
- ・論理回路シミュレーション
- ・実際の回路についてデジタル回路シミュレーション

機械学科対象

- ・機械技術者の仕事紹介
- ・展開図のワーク など

授業実施校

- 日本電子専門学校
- 大阪工業技術専門学校
- 熊本工業専門学校



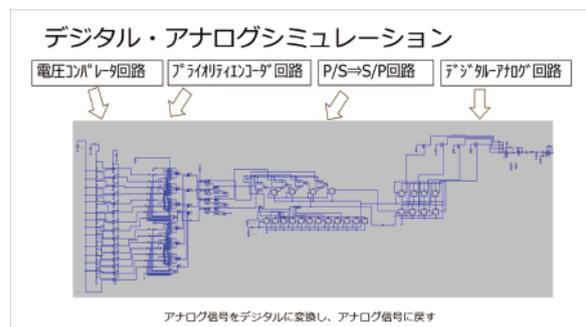
日本電子専門学校



大阪工業技術専門学校



熊本工業専門学校



デジタル・アナログシミュレーション

受講した学生様からは、「シミュレーションを実際に見たのは初めてだったので感動した」「設計においてもコミュニケーションが大事だと知ることができた」との声がありました。業界についての興味や機電系技術者としての仕事に対する意欲を高められる機会となったのではないかと思います。

今後も業界を知る、体験できる授業を企業の皆様とともにご提案させていただきます。

お問い合わせ

株式会社ビーアライブ

Mail : event@b-arrive.jp URL : <https://www.b-arrive.jp/>

株式会社ビーアライブはTCE財団の検定事業に賛同します。

IT系専門学校生を積極採用する企業が登壇 [PR]

「25卒IT系学科 オンライン合同企業説明会」開催

2024年4月19日より全3回、25卒IT系学科の専門学校生を対象としたオンライン合同企業説明会を開催いたします。

本企業説明会はIT系専門学校生の

採用を行う企業が各回6社(予定)登壇し、事業紹介や募集職種、選考フローなどについて8分間講演していただきます。企業情報や各社の違いを理解することができ、学生様の

今後の就職活動にお役立ていただける情報をお届けいたします。関連分野の学生様にご参加いただきたいので、ぜひご案内ください。

■開催概要

開催日: 2024年4月19日(金)、5月15日(水)、5月21日(火)
開催時間: 13:30~14:30
開催方式: Zoomウェビナー
視聴対象者: 25卒IT系専門学校生
参加費: 無料(事前申込制)
主催: 株式会社ビーアライブ
申込方法: 下記の学生専用フォームよりお申し込みください。
<https://forms.gle/E8eJFLpojwXPbiNP6>

QRコードからも
お申し込いただけます。



お問い合わせ

株式会社ビーアライブ

Mail : event@b-arrive.jp

URL : <http://www.b-arrive.jp/>

株式会社ビーアライブはTCE財団の検定事業に賛同します。

専門学校と経営通信 No.22

読者アンケートへのご協力のお願い

専門学校と経営通信No.22をお読みいただき、誠にありがとうございます。

皆様のご意見を今後の紙面制作に反映させるため、読者アンケートへのご協力をお願いいたします。

下記の専用URLもしくはQRコードからアクセスし、ご回答ください。

何卒よろしくお願ひ申し上げます。

▼専門学校と経営通信No.22 読者アンケート

<https://forms.gle/1GPaKdLaEbSgbEvs7>

回答期限:2024年4月26日(金)



令和6年能登半島地震により被害を受けられました皆様に、心からお見舞い申し上げます。

皆様の安全と被災地の1日も早い復旧をお祈りいたします。

【専門学校と経営】事務局

専門学校と経営 | 通信 No.22 2024年3月発行 (年4回)

■本誌記事内容に関するお問い合わせ

【専門学校と経営】事務局

〒105-0021 東京都港区東新橋2-18-3 ルネパルティエーレ汐留906 (株式会社ビーアライブ内)

[TEL]03-3436-2035 [Mail]setten-info@sgec.or.jp [URL]<https://setten.sgec.or.jp/>

協力: 一般財団法人 職業教育・キャリア教育財団 (TCE財団) 事業部事業課 検定試験センター

「創る」「使う」「伝える」
情報検定 J 検
URL <https://jken.sgec.or.jp/>

ビジネス能力検定 B 検
Jobpass
ジョブパス
URL <https://bken.sgec.or.jp/>

●【専門学校と経営】は、TCE財団の検定事業 (J検・B検) と連携して、専門学校の産学連携を促進する様々な取組について情報発信しています。